

27. 老人の家庭生活と意見について

—老人調査第1報—

福島大学芸 岡村 益

1. 老人の生活を家族員相互関係や物的側面から構造的に捉えた家政学的研究は殆ど見当たらないが、人口老令化に伴う老人研究の必要に鑑みて、老人の家庭生活を実証的に研究し家族関係調整及び新しい意味の真に人間的な老人の位座の安定をはかる方法を導き出す資料を得ることを目的とする。予報に学生の老人観をとりあげたので、今回は家庭老人の衣食住と奉養状況、収入と抹養形態、抹養者等の実態を通して課題への接近を試みた。

2. 質問紙法面接聴取による。福島県在住老人 520名について、性・年令・健康状況・経済能力・配偶者の有無別に集計した。

3. 現時の地方における家庭老人の生活実態及び意見態度の大要を把握し、今後の変化や施設収容老人と比較すべき資料を得た。対象の過半数が長男や跡とりとの伝統的な同居抹養で経済力も弱く、健康状態も5%が老人性疾患をもつ。これら老人の日常生活の世話（布団しき室の掃除・洗濯・縫物等）をする人、食事の差や専用室の有無、行動の自由度、家事への参加度等を調査したが老人が特別保護をうけることは意外に少い。またその楽しみ事、心配事、幸福感、適応の態度、行動意欲等を調べそれらの相互関係を認めた。敬老観念が近時薄らいだとは思わぬとする率は学生の老人との同居支持率と略対応し家庭老人の安定度を示し、また一方役割担当の意欲等に不安定さがみられた。